

## 国語科学習指導案

単元名 初恋

単元で育成する資質・能力の重点 思考力・判断力・表現力

1 日時 令和2年11月5日(木) 5校時 場所 3年3組教室

2 学年 第3学年3組 (男子17名 女子16名)

3 単元名

4 単元について

### (1) 単元観

本単元は、学習指導要領(平成20年)の第3学年「C読むこと」の指導事項「ア 文脈の中における語句の効果的な使い方など、表現上の工夫に注意して読む」力、「ウ 構成や展開、表現の仕方を評価する」力を、言語活動例の「ア 物語や小説などを読んで批評すること」を通して身に付けさせることを目的として設定するものである。

本単元で扱う文語定型詩は中学3年間の詩の学習において、この詩だけであり、近代の詩を学ぶという意味でも、定型詩を学ぶ意味でも、本教材の位置づけは重要である。また、「恋愛」というテーマ性自体も、教科書教材としては貴重であり、生徒にとっては興味深い題材である。

「林檎」の薄紅という色から、初恋の初々しさ、可憐で匂い立つような少女のイメージ、「われ」と「君」の成熟しきれない若々しさを読み取るなど、辞書には載っていない「隠された意味」を読み取る力をつけるのに好適の学習材である。

### (2) 生徒観

2学年時の1月に実施した令和元年度標準学力調査の結果において、本単元に関わる調査結果については以下のような結果であった。「登場人物の心情の変化をとらえることができる」力を問う問題において、市町村の正答率が51.3%であったのに対し、校内の正答率は54.3%であった。この問題に対して半数の生徒が正答することができ、無解答の生徒は0%であったが、45.7%の生徒は誤答であったことから、答えようとする意欲はあるが正しく読み取ることができていない生徒も半数近く存在するという実態があると言える。

また、「読み取った内容を明確にして書くことができる」力を問う問題では市町村の正答率が83.6%であったのに対し本校では81.1%の生徒が正答することができているが、その内容について「自分の考えを明確にして書くことができる」力を問う問題では市町村の正答率が72.7%であったのに対し正答率が67.7%であったことから、正確に読み取ることができても、それに対して自分の考えを述べる力については課題があることがわかる。

内容を正確に読み取ることができない原因として、「文学作品の読解」の際、キーワードとなることばで辞書には載っていない「隠された意味」、つまりそのことばが持つイメージや象徴を捉えられていないという実態がある。

### (3) 指導観

まずは文脈の中における語句の効果的な使い方など、表現上の工夫に注意して正確に読み取るため

の指導をする。その際に、ことばは辞書に載っている「表に現れた意味」の他に「隠された意味」があるという既習事項を確認し、キーワードとなる「隠された意味」に注目させる。この「隠された意味」をイメージしにくい生徒が誤答しているという生徒の実態からも、キーワードがもつイメージについてグループ学習を通して、他の意見を取り入れながら広げ深めさせたい。

また、登場人物の心情を正確に読み取らせるため、既習事項である「視点人物」に注目させ、詩や文章に表れた表現が誰の視点から見て表現されたものかを確認し、捉えさせる。

本単元で育成したい資質・能力は「思考力・判断力・表現力」である。文脈の中における語句の効果的な使い方について個人で考えさせ、文章化させたのちに、グループで交流させることにより、思考を深めたり自分の考えを表現したりする力を養いたい。他人の考えについて自分の考えと比較させることにより、判断力も養っていききたい。

### 5 単元の目標

- 詩の形式をふまえて朗読し、描かれている思いを捉える。
- 表現の特徴とその効果を理解し、初恋の心情を味わう。
- 構成や展開、表現の仕方について評価する。

### 6 単元の評価規準

ア 国語への関心・意欲・態度	イ 話す聞く能力	ウ 読む能力	エ 書く能力	オ 言語についての知識・理解・技能
①朗読して詩に描かれた思いを捉えようとしたり、表現の特徴と効果を理解して初恋の心情を味わおうとしていたりしている。	/	①詩の形式をふまえて朗読し、描かれている思いを捉えている。 ②表現の特徴とその効果を理解し、初恋の心情を味わっている。	/	①表現の特徴と効果に着目して読み、語感を磨き語彙を豊かにしている。

### 7 本単元で育成したい資質・能力

本単元で育成したい資質・能力	「思考力・判断力・表現力」
達成時の生徒の具体的な姿	自分の考えを文章で表現し、その考えを友達に伝えることができる。
本単元の指導で工夫する点	思考する際にイメージしやすいよう、実物の林檎を用意し、見たり触ったりした感覚をもとに言語化させる。
努力を要する生徒への手立て	友達の考えをヒントにして自分の考えを持たせる。

8 単元の指導計画（本時は 2 / 2）

次	時	学習内容	評価規準			評価方法	
			関	読	知		
1	1	朗読や読解を通し，詩の内容を捉える。	◎			ア「われ」の目から見た「君」の様子がわかる箇所に線を引き、「われ」の思いを捉えようとしている。（関心・意欲・態度①）	記述の確認
				○		ウ「君」の様子と「われ」の恋心の関係性に着目し，詩に描かれている思いを捉えている。（読む能力①）	交流の観察，記述の確認
2	2	初恋を表現するための事物として「林檎」を用いたことの効果について考える。		◎		ウ「林檎」と初恋とのイメージの重なりについて，自分の考えをワークシートに書き表している。（読む能力②）	記述や交流の確認
					○	オ「林檎」という語がもつ「隠された意味」に着目してイメージをふくらませている。（言語に関する知識・理解・技法①）	記述や交流の確認

## 9 本時の学習

### (1) 本時の目標

初恋を表現するために「林檎」という言葉を用いたことの効果が説明できる。

### (2) 観点別評価規準

・ウ 読む能力

②「林檎」と初恋とのイメージの重なりについて、自分の考えをワークシートに書き表している。

・オ 言語についての知識・理解・技能

①「林檎」という語がもつ「隠された意味」に着目してイメージをふくらませている。

### (3) 資質・能力育成のポイント

グループで意見を交流することにより、自分の考えを広げたり深めたりする。

### (4) 準備物

教科書、ワークシート、実物の林檎、林檎の写真、ホワイトボード、マーカー、辞書

### (5) 本時の学習の展開

主な発問と学習活動	教師の働きかけ	
	指導上の留意点 (◇)・支援 (*)	評価 (◎) [方法]
<p>1 既習内容を確認する ○前時の確認をする。</p> <p>2 学習課題を設定する ○本時の学習課題をつかむ</p>	<p>◇前時に学習した詩の内容を想起させる。 ・「われ」は「君」に恋をしていること。 ・文語定型詩であること。</p> <p>◇詩の中で初恋を表現するためになぜ「林檎」を用いたのか、どのような効果があったか考えるという本時の学習課題をつかませる。</p>	
初恋を表現するために「林檎」という言葉を用いたことの効果が説明できるようになる。		
<p>3 課題について考察し、考えをまとめる。 (個人→グループ) ○「作者は、初恋を表現するのに、なぜ「林檎」を用いたのでしょうか。」 ○まず、辞書で「林檎」の意味を調べる。 ○個人で「林檎」と「初恋」、この2つに共通するイメージについて考え、初</p>	<p>◇国語辞典に載っている表に表れた意味を捉えさせる。 *教科書P19「読み方を学ぼう① 隠された意味」を再読して確認させる。 ◇「林檎」と「初恋」それぞれの言葉がもつイメージを挙げさせたいので、この2つに共通するイメージを考えさせる。</p>	<p>「林檎」と初恋とのイメージの重なりについて、自分の考えをノートに書き表している。 (ウ読む能力②) [ワークシートへの記述や交流の確認]</p>

<p>恋を表現するのになぜ「林檎」を用いたのかまとめる。</p> <p>○「林檎」と「初恋」、この2つに共通するイメージについてグループで検討し、なぜ初恋を表現するのに「林檎」を用いたのか文章にまとめる。</p>	<p>*実物の「林檎」を見せ、イメージしやすくさせる。</p> <p>*五感に注目させ、見た目の形や味など、イメージするための視点を与える。</p> <p>*「葡萄」や「梨」、「みかん」ではなく、「林檎」を用いたのはなぜか他の表現と比較して考えさせる。</p> <p>◇机間指導をしながら話し合いの状況を把握する。</p>	<p>◎「林檎」という語がもつ「隠された意味」に着目してイメージをふくらませている。</p> <p>(オ 言語に関する知識・理解・技能①)</p> <p>〔ワークシートへの記述や交流の確認〕</p>
--	---	---

<p><b>【予想される生徒の反応】</b></p> <p>○「林檎」のイメージ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「林檎」は、しゃきしゃきしている・おいしい・秋・堅い・赤い・青い・丸い・甘酸っぱい・みずみずしい・輝きがあるなどのイメージがあるね。</li> </ul> <p>○「初恋」のイメージ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「初恋」は、照れる・ドキドキ・キュン・苦しい・若い・幼いなどのイメージがあるね。</li> </ul> <p>○2つに共通するイメージ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・甘酸っぱい・小さい・だんだん赤くなる、つまり自分の思いや恋が進行していくイメージと重なる。</li> </ul> <p>○なぜ、初恋を表現するのに「林檎」を用いたのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・林檎の甘酸っぱい味を表現するため。初恋だから恋をして楽しい気持ちもあるけれど、自分の気持ちをうまく伝えられないという様子が甘酸っぱいという味のイメージと重なる。</li> </ul> <p>○林檎の丸みを帯びた形が「君」の頬が赤みを帯びていることを連想させるから。</p>		
--	--	--

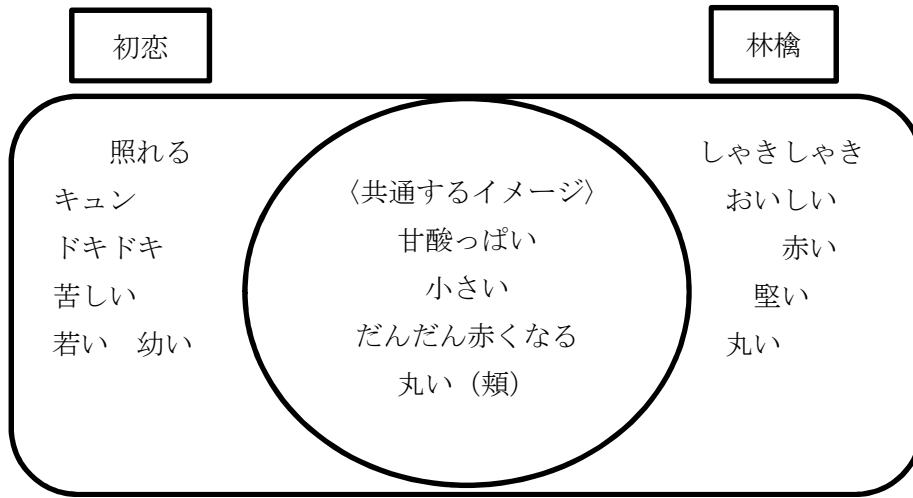
<p>○全体で考えを交流する。</p> <p>4 学習のまとめを行う。</p> <p>○互いの学びを交流する。</p> <p>5 本時の学習を振り返る。</p>	<p>◇グループごとに黒板に書きこんだり、文章をまとめたホワイトボードを掲示させたりする。</p> <p>◇全体での交流を受けて、初恋を表現するのになぜ「林檎」を用いたのか、言葉を追加させたり表現を加えさせたりする。</p> <p>◇ワークシートに、本時の学習でわかったこと、考えたこと、今後に生かしたいことなどを書かせる。</p>	
--	--	--

(6) 板書計画

【本時の目標】

初恋を表現するために「林檎」という言葉を用いたことの効果の説明できるようにしよう。

○ 作者は、初恋を表現するために、なぜ「林檎」を用いたのだろうか。



○ 「林檎」がだんだん赤くなる様子から、恋が進行する様子をイメージすることができるから。

○ 「林檎」の甘酸っぱい味から、初めての恋でうまく自分の気持ちを相手に伝えられない様子と重なるから。